

【児童を取り巻く今日的課題】

- ・確かな学力, 豊かな心, 健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむ必要性
- ・読解力, 記述式問題, 活用に課題
- ・学習意欲, 学習習慣・生活習慣に課題
- ・自信の欠如や自らの将来への不安, 体力の低下

【研究主題】

**「自分の思い, 考えをもち, 伝え合することができる児童の育成」
～各教科等の特質に応じた言語活動の充実を通して～**

【目指す児童像】

主体的に考え, 判断し, 行動できる児童
～自分の言葉で自分の思い, 考えを伝え合う児童～

【研究仮説】

児童の身近な言語環境を整備し, 各教科等の特質に応じた言語活動を取り入れた授業を実践するとともに, 学校と家庭, 地域の結びつきを生かして児童の生活・学習習慣の確立を図り, 児童一人ひとりに応じた指導を展開していけば, 主体的に考え, 判断し, 行動できる児童の育成につながるであろう。

【児童の実態】

- 温厚・温和で, 心優しい
- 純朴・素直で, 指示されたことは最後までやり通そうとする
- 主体的に思考・判断し, 行動することが苦手(発信する, かかわる, 努力, 忍耐等)
- 生活習慣の改善が必要(家庭学習の習慣化, 学習用具の準備等)

【児童の学力状況】

- 無解答率の改善が見られた
- 振り返りの際の書く量, 速さが向上した
- 短答式・記述式の問題に対する正答率が向上した
- 基礎的・基本的な学習内容の定着度が低い
- 思考力・判断力・表現力が乏しい
- 個人差が大きい

研究構想図

この研究構想図のイメージは、「海」を授業を支える下地、「魚」を授業改善のための要素ととらえ、それらを「くじら」が食し、消化することが授業改善と考えました。そして、その過程を通して潮吹きとして表れてくる姿が目指すべき児童の姿と考えています。

【目指す児童像】

主体的に考え、判断し、行動できる児童
～自分の言葉で自分の思い、考えを伝え合う児童～



地域団体・
人材との連携

望ましい
学習習慣

望ましい
生活習慣

【授業研究部】
授業改善
～言語活動の充実～

授業と家庭学習との関
連を図る「自学タイム」
の活用

基礎的・基本的な
学習スキルの向上

【新中・低・中層】

説明力向上の
ための取組

個に応じた指導と
授業の充実

【中高層・高層・進学】

言語環境の整備

学校と家庭・地域を
結ぶ、通信の発行

正義感

信頼関係

向上心

規範意識



授業研究部

(1) 言語活動の充実により、思考力・判断力・表現力の伸長を図る授業モデルの開発

- ①何のために、どのような言語活動を、学習過程のどの場面に位置付けるのが効果的かについて明らかにするとともに実践する
- ②各教科等の特性を踏まえた言語活動の開発
付けたい力(目標)を明らかにする→ふさわしい言語活動を考える→適切な場に位置付ける→具体的な発問や教材を考える
- ③指導計画の構想
学習指導要領の目標、及び、内容等に準じた単元の目標を設定し、思考・判断・表現の観点をねらいとする時間に「言語活動」を位置付ける

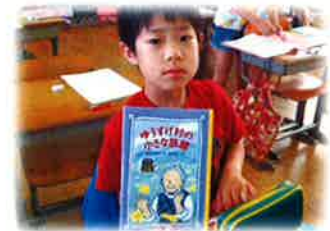
第3学年実践 国語科「あらすじブックをつくろう～物語のあらすじをまとめる活動を通して～」

★教材文の読み取りを他の読書に生かす活動

- 教材文と同じシリーズの物語を並行読書として取り入れ、授業と普段の読書のつながりを持たせた。
- 児童が共通の視点をもとに伝え合いができるように、読み取りの視点を提示し、それをもとに伝え合うようにした。
- 授業の終末に時間、字数を指定した振り返りの活動を取り入れ、焦点を絞ったまとめができるようにした。

<振り返り>

- 児童が同じシリーズの物語を読むことで、学習したことを自分の読書に生かすことができ、児童が同じ物語についてその思いを交流することができた。
- 視点を提示した読み、伝え合いにより、児童が同じ方向性で学習を進めることができた。



第6学年実践 国語科「オリジナルの物語を書こう～読み手に感動をあたえるような文章を書く～」

★本時の学習と単元を貫く言語活動との関連を図った活動

- 言語活動「オリジナルの物語を書こう」を設定し、教材文の優れた叙述に着目する必然性を持たせるようにした。
- 統一したノート指導により、ペアや全体での伝え合いの際に、そのノートも自分の考えの根拠として示しながら話すようにした。
- 単元を通して、授業の終末に「日記を書く」という活動を取り入れ、中心人物の心情の変化をとらえさせ、その積み重ねをもとに物語作りに取り組んだ。

<振り返り>

- 「物語を書く」という活動を通して、実感を伴って物語の構成、書き表し方の工夫を理解することができた。
- 視点を明確にした伝え合いやノート指導の充実等によって、互いの思いや考えをより深く共有することができた。



第1学年実践 生活科「きれいに さいてね たくさん さいてね」

★視点を明確にした「話す」「聞く」「書く」言語活動

- 観察カードは、単元を通して、「みつけたよ」「かわったよ」「くらべたよ」などという視点に沿って書くようにした。
- 観察カードに視点をもとにしてまとめた内容を、伝え合いの場面で紹介するようにし、気づきの質を高めるようにした。
- ペアや全体で相手の話を聞くとともに、自分の今後の学習に生かすために、自分と「にているところ」「ちがうところ」を見つけながら聞かせた。



<振り返り>

- 「みつけたよ」「かわったよ」「くらべたよ」などの視点をもとにアサガオの成長を記録したり伝え合ったりすることで、焦点を絞って観察する力や話し合ったりする力が身に付いた。
- 自分と「にているところ」「ちがうところ」を見つけながら伝え合いの活動をしたことで、友達の考えに関心をもって聞くとともに、感じ方の違いに気付いたり互いの成長に気付いたりすることができた。



第4学年実践 社会科「事故や事件からくらしを守る」

★体験的な学習をもとにした言語活動

- 「千綿の安全マップ」作りをゴールの活動として提示することで、調べたい、伝えたいという意欲を喚起するとともに、必要感をもった学習が展開できるようにした。
- 「自分の思い、考えをもつ」ために、派出所の取材やゲストティーチャーの来校などによる調査活動を通して、実感を伴った説得力のある考えをもつことができたようにした。
- ペアや全体での「伝え合う」活動を通して、本時で学習したことをまとめるためのキーワードを設定した。



<振り返り>

- 単元の終末の活動としての「千綿の安全マップ」作りに向けて、終始意欲的に学習することができた。
- 体験を伴う学習を通して、教室での学びと実社会とのつながりを意識することができた。
- 教師と児童とのやり取りの中から本時の学習のキーワードを設定することで、何がわかった、何ができたということが明確になった。



(2) 毎月の校内研究授業の実施と授業研究会の開催

- ①「教える・考えさせる・活動させる・発表させる」等の指導過程の場の設定を考えた、「わかる授業」、「楽しい授業」の創造
- ②個別学習、ペア・班学習、TT等の指導方法・指導体制の工夫改善
- ③教師と児童による授業評価
←授業参観チェックシートの活用、授業終末の振り返りの時間の確保

学力向上部

(1) 児童の学力状況の分析

- ① 全国学力・学習状況調査 ② 長崎県学力調査 ③ 標準学力調査 ④ 市販テスト 等

(2) 言語環境の整備

- ① 掲示教育の充実
- ② 読書指導と図書館教育の充実

漢字チャンピオン 9月の結果	漢字チャンピオン 9月の結果
100点満点 79人	100点満点 59人
全校平均点 90点	全校平均点 83点

(3) 説明力向上のための取組

- ① 「学びのスタンダード」の開発…言語活動充実のためのスタンダードの開発
- ② NIE教育の推進
- ③ 各種コンクールへの挑戦

(4) 基礎的・基本的な学習スキルの向上

- ① 学習スキルの定着
- ② 「書く体力」向上ための取組
- ③ 漢字・計算チャンピオンの取組



学家・地域連携部

(1) 生活・学習習慣の確立

- ① 「生活・学習状況調査」の定期実施と分析及び考察
- ② 「早寝・早起き・朝ごはん」「家庭学習」への取組の推進
- ③ 日々の生活目標としての「あいさつ」「5分前行動」等の推進
- ④ 「学習の心得7カ条」や「話し方・聞き方の約束事」「ちわたっ子宣言」の掲示と繰り返し指導
- ⑤ 「師弟同行」による朝の「読書タイム＝静寂タイム」の実施



(2) 授業と家庭学習の効果的な関連を図るための「自学タイム」の活用

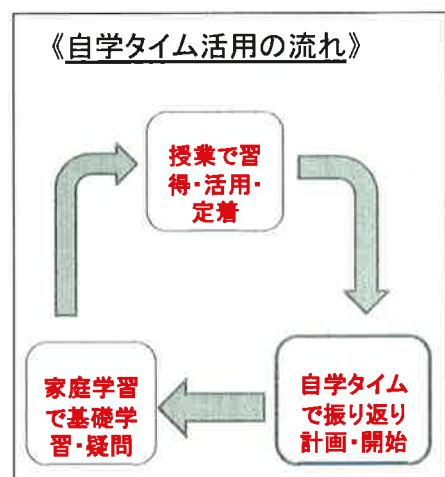
- ① 「自主学习ノート」の作成と活用
- ② 自学タイム（帰りの会の前15分間）に家庭学習の計画を立て開始する

(3) 児童一人ひとりを大切にしたきめ細やかな指導と授業の充実

- ① 地域人材や外部団体等との効果的な連携・協力
- ② 個別のサポートシートの作成

(4) 学校と家庭・地域を結ぶ「学びの広場」の発行

- ・ 毎月1号以上の発行 ・ 研究の様子を伝える
- ・ 家庭への啓発



平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
千綿小学校	+	+	-	+

※全国の平均正答率との比較。

<児童質問紙>

「(46) 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。」

○「そう思わない」の回答…本校34.6%/全国14.6%

「(60)(61)(73)(74) 調査問題の解答時間は十分でしたか。」

○肯定的な回答…「時間が余った」+「ちょうどよかった」

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
本校	100%	80.8%	96.1%	84.6%
全国	85.5%	50.6%	89.4%	76.4%

【成果】

- ・無答率の改善が見られた。(ほとんどの問題において0%またはそれに近い値。)
- ・国語科, 算数科ともに, 短答式・記述式の問題に対する正答率が高い。
- ・一定の長さの文章を書く体力が向上してきた。
- ・題意を読み取ったり自分の考えを書き表したりする速さが向上してきた。

【課題】

- ・観点, 視点等を決めた学習の機会, 経験が不足している。
- ・「話す・聞く・話し合う」の機会, スキルが未熟である。
- ・課題解決に必要な基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分。

平成 26 年度 長崎県学力調査の結果

	国語	算数
千綿小学校	+	-

※長崎県の平均正答率との比較。

【成果】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域における正答率が高い。
- ・記述式の問題に対する正答率が高い。
- ・国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解できている。
- ・複数の記事に関連付けながら必要な情報を読み取り, その内容について, 記事を引用しながら書くことができる。

【課題】

- ・ことわざや慣用句, 故事成語などの理解が充分ではない。
- ・文と文の意味のつながりを理解し, 二つの文を一つの文に書き直すことが苦手である。

研究の成果と課題（平成 26 年 11 月現在）

成果

国語科で身に付けた力を他教科の学習へ生かす取組が充実してきた。

学力調査における無答率が減少した。

話す、聞く、書く、読むなどの活動において、その視点を提示することで、その目的が明らかになり評価がしやすくなった。

NIE ノート、漢字・計算チャンピオンなどの全校での取組が学力向上につながってきた。

各教科等の学習において、言語活動の充実を図ることで、思考力、判断力等の高まりが見られた。

言語活動の充実により、単元を見通した指導を一層心がけるようになった。

実際に作るものや書き表す内容などのモデルを提示することで、目指すべき方向性が明らかになった。

ペア学習が充実したことで、自分の考えに自信がもてたり、多様な考えを知ったりすることができた。

評価の材料が増え、多様な観点で評価できるようになった。

国語辞典の日常的な活用が充実してきた。

自分の思い、考えを書き表し、それをもとに話そうとする意欲が高まった。

めあてを意識した学習が充実してきた。

教師

児童

伝え合うためのスキルの指導が不十分である。

主体的な家庭学習の充実。

聞くことへの関心が十分に高まっていない。

教科の特質の理解をさらに深め、それに応じた言語活動を充実させる必要がある。

伝え合う意欲がまだ十分高まっていない。

視点、キーワードの設定については、見通しをもった設定が必要である。

語彙数が少なく、文章の読み取りや表現活動に支障をきたすことがある。

多様な言語活動を充実させる必要がある。

課題